

# 東京湾海況情報 26-7

## 東京湾水質調査結果 (平成26年10月)

(平成26年10月16日発行)

千葉県水産総合研究センター  
 東京湾漁業研究所  
 〒 293-0042 富津市小久保3091  
 TEL 0439-65-3071  
 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp  
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 10/1：内湾(ふさなみ)、内房海域(ふさみ丸)  
 関東・東海海況速報(10/1)、東京湾口海況図(10/1)  
 モニタリングポスト10/1：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁)

### 【 水温・塩分の状況 】

内湾の表層水温(図1)はおおむね22℃台で、全域でほぼ平年並みでした。塩分は30～32PSU台で、平年よりやや高くなっていました。

縦断面の鉛直分布(図3)では、水温、塩分とも内湾中央部付近の水深10m以深で成層状態になっています。

一方、内房海域の表層水温も22～23℃台になっています。

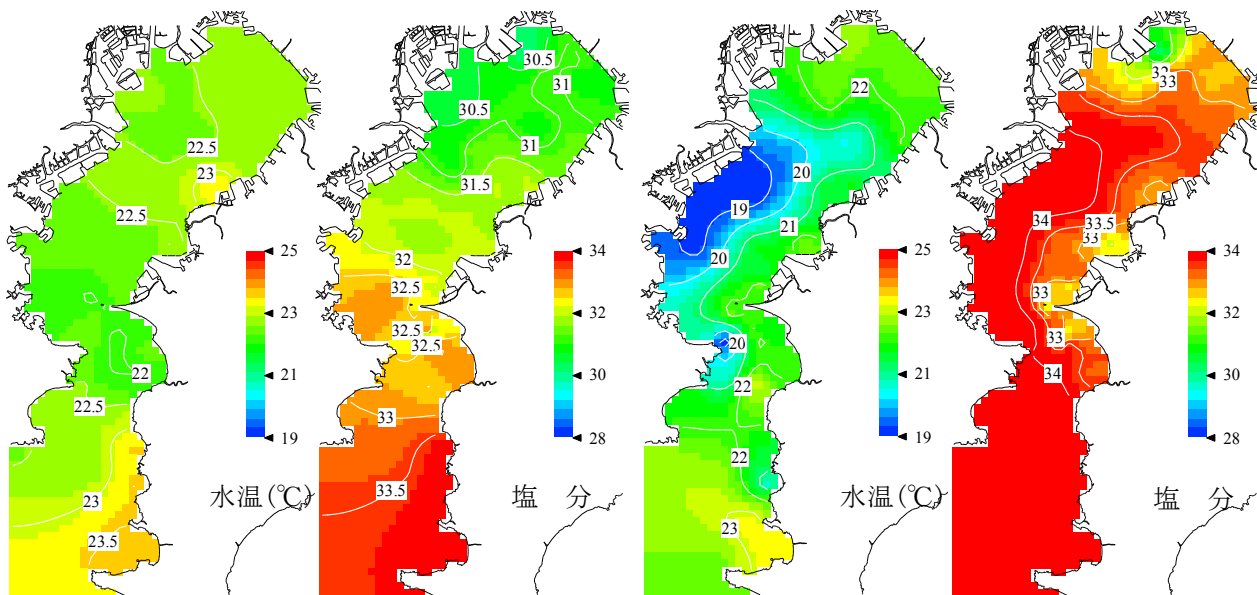


図1 水温・塩分分布(表層)

図2 水温・塩分分布(底層)

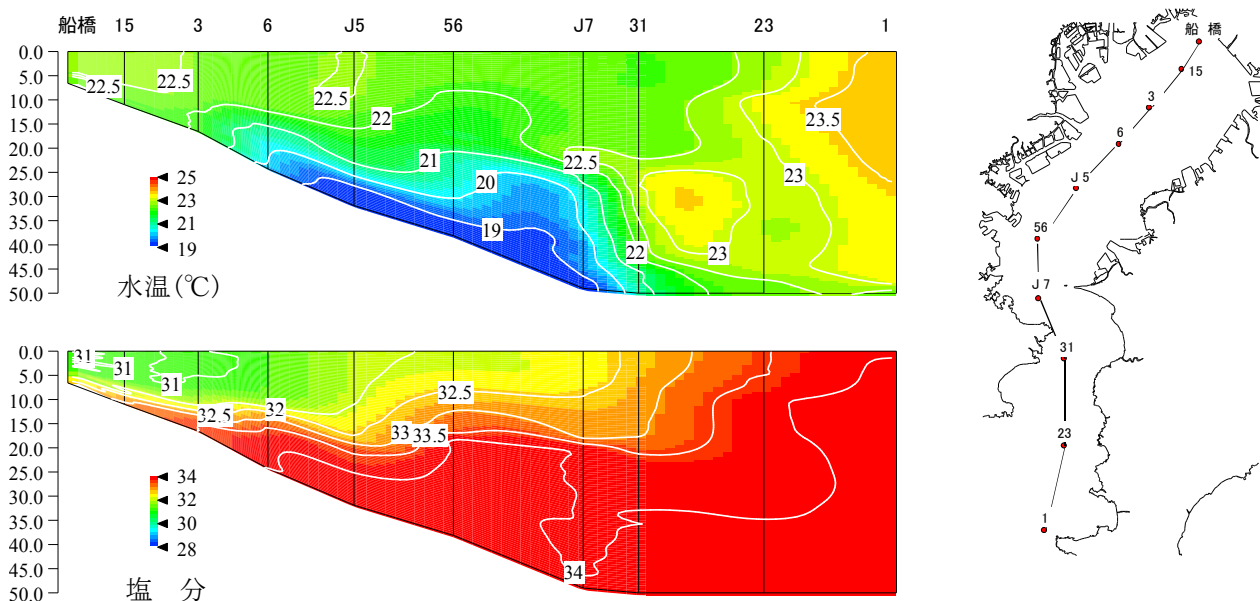


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布(上：水温、下：塩分、右：調査ライン)

## 【赤潮の状況】

赤潮は幕張から検見川の浜・千葉にかけての沿岸で発生し、pH 8.4~8.5、透明度2m台で、水色も褐色を呈する状態でした。

優占種はケイ藻のタラシオシラ (*Thalassiosira* sp.) で、その他にシュードニッチア (*Pseudo-nitzschia* sp.) や渦鞭毛藻のケラチウム (*Ceratium furca*) がみられていました。保田から富浦にかけての海域ではケイ藻類がみられる程度でした。

これらはいずれも魚貝類に有害な種類ではありません。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。

色	: オリーブ~褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 $\mu$ g/L以上

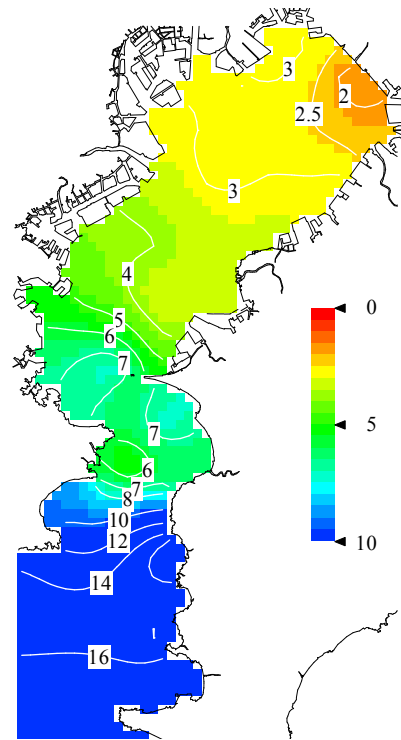


図4 透明度の分布(m)

## 【貧酸素水塊の状況】

内湾底層部の溶存酸素量(図5, 6)は内湾北部海域で低く、0.5ml/L以下の強い貧酸素水塊が北東部海域で広く分布していました。

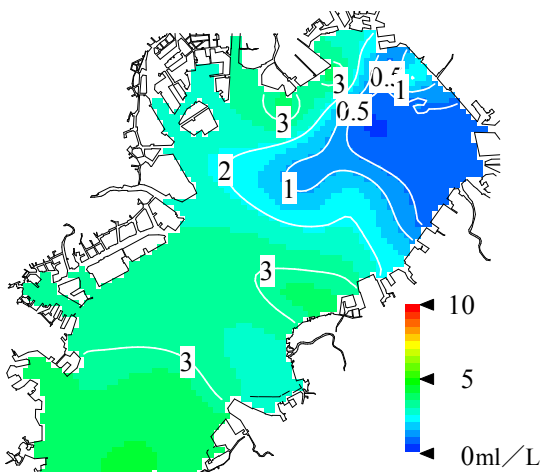


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

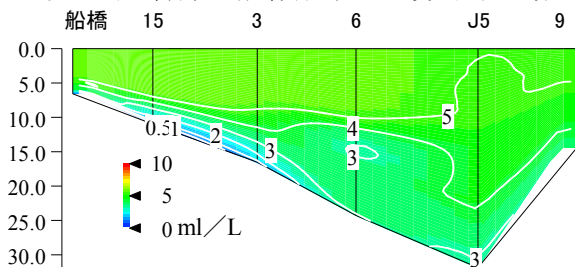


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L (酸素飽和度50%) 以下を貧酸素水塊としています。

## 【栄養塩の状況】

湾内の表層栄養塩(図7)は溶存無機態窒素(DIN)は全域で平年並みからやや少なめ、リン酸態リン( $PO_4-P$ )は内湾北東部海域でやや少なめでした。

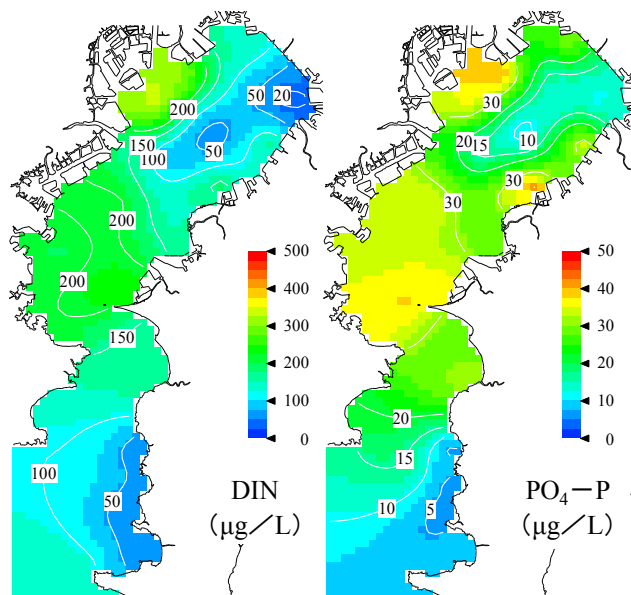


図7 栄養塩濃度の分布(表層)

## 【黒潮の状況】

黒潮はN型基調で推移し、その流軸は1日現在八丈島と御蔵島の間を通過した後、房総半島南東岸をやや蛇行しながら北東方向へ流れています(図8)。

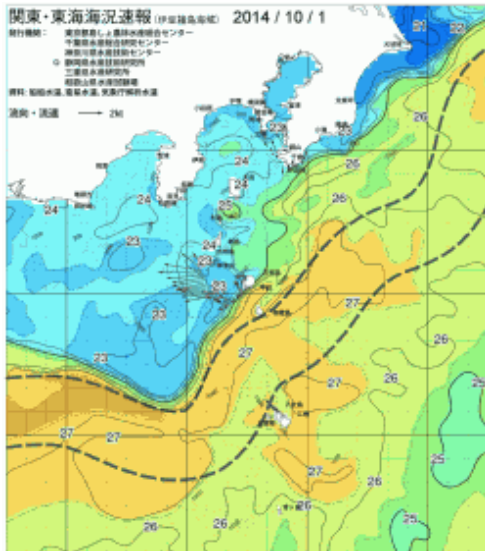
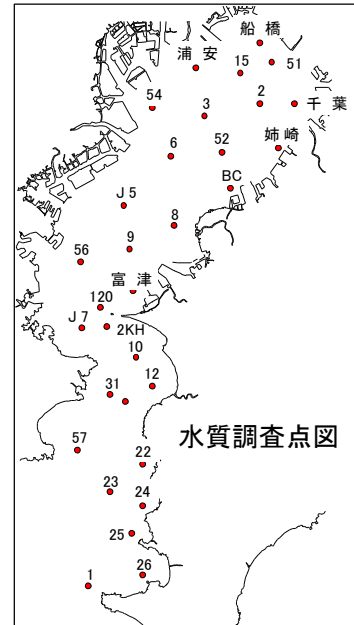


図8 黒潮の動き (平成26年10月1日)



水質調査点図

表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)  
( ): 最近10年間の平均値 (2004~2013年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (μg/L)	溶存無機態窒素 (μg/L)	リン酸態リン (μg/L)	クロロフィルa (μg/L)
内湾	船橋	22.7 (22.5)	30.98 (30.33)	2.9 (2.2)	8.3 (8.3)	0.3 (2.1)	55 (70)	119 (249)	28 (37)
	st.15	22.7 (22.4)	31.02 (29.48)	2.9 (2.2)	8.4 (8.4)	0.4 (1.7)	30 (29)	109 (197)	15 (20)
	st.3	22.5 (22.1)	30.98 (28.80)	2.8 (2.9)	8.4 (8.4)	0.7 (1.4)	26 (61)	92 (373)	13 (26)
	st.6	22.3 (22.0)	31.16 (29.54)	3.0 (3.1)	8.4 (8.4)	2.7 (2.3)	26 (34)	77 (250)	14 (19)
	st.9	22.4 (22.1)	31.58 (29.74)	3.5 (4.3)	8.3 (8.3)	3.2 (3.3)	29 (36)	200 (230)	32 (21)
	st.BC (盤洲Cブイ)	23.4 (23.0)	31.94 (30.26)	3.2 (2.6)	8.2 (8.4)	3.1 (2.6)	57 (28)	169 (148)	40 (24)
	st.8 (盤洲A南)	22.5 (22.1)	31.88 (30.21)	3.3 (3.3)	8.3 (8.3)	2.5 (2.7)	22 (42)	133 (197)	27 (27)
	富津	22.4 (22.1)	32.11 (30.29)	4.3 (4.7)	8.2 (8.2)	3.4 (3.7)	50 (52)	218 (244)	35 (23)
内房海域	st.2KH (第2海ほ下)	22.2 (22.3)	32.58 (31.71)	6.5 (5.9)	8.3 (8.2)		57 (38)	195 (194)	35 (22)
	st.31	22.1 (22.5)	32.64 (31.67)	5.5 (8.4)	8.3 (8.2)		16 (25)	141 (148)	27 (17)
	st.23	22.7 (23.5)	33.47 (33.05)	15.0 (13.6)	8.2 (8.2)		12 (16)	78 (66)	13 (6)
	st.1	23.5 (23.8)	33.78 (33.38)	18.0 (16.5)	8.2 (8.2)		64 (15)	104 (35)	6 (4)
	st.10 (下洲沖)	22.0 (22.5)	32.94 (31.94)	7.5 (5.5)	8.3 (8.3)		15 (30)	143 (160)	27 (15)
	st.12 (湊沖)	22.0 (22.7)	32.80 (31.90)	6.5 (5.8)	8.3 (8.2)		18 (24)	150 (124)	29 (14)
	st.22 (保田沖)	23.5 (23.4)	33.90 (33.27)	18.0 (12.5)	8.2 (8.2)		10 (18)	29 (47)	4 (4)
	st.24 (富山沖)	23.5 (23.4)	33.95 (33.37)	15.0 (13.7)	8.2 (8.2)		21 (16)	45 (38)	4 (4)
	st.26 (館山湾内)	23.6 (23.9)	33.94 (33.60)	18.0 (13.0)	8.2 (8.2)		18 (18)	34 (55)	6 (6)

分析中

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。